

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/04

米金利正常化観測によるドル/円上昇の影響を受ける

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↑	RBA理事会よりも豪3月雇用統計か 予想レンジ: 84.80 ~ 90.20 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	↑	株価に左右されやすい展開 予想レンジ: 62.20 ~ 67.20 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↑	インフレによりランド高も 予想レンジ: 12.10 ~ 13.00 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 3/28~4/1の主な推移



3/28 Monday	豪州の洪水に伴う保険金支払いに伴う豪ドル買い・ポンド売りの観測を手掛かりに豪ドル買いが強まると、豪ドル/円は84.21円まで上昇した(①)。
3/29 Tuesday	ブロード・米セントルイス地区連銀総裁が「米連邦準備制度理事会(FRB)は世界の不確実性が解消される事を待たずに、金融政策の正常化を開始する可能性がある」などと発言。市場では米金融緩和の出口戦略からのドル/円の上昇に連れて豪ドル/円は上昇した(②)。
3/30 Wednesday	フィッシャー・米ダラス連銀総裁の「6月以降の量的緩和第2弾(QE2)延長に反対」との発言が引き金となり、ドル/円が上昇し連れて豪ドル/円は値を上げた。またその後も欧州株や時間外のNYダウ平均先物の上昇を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、豪ドル/円は一時85.78円まで上昇した(③)。
3/31 Thursday	豪2月小売売上高は前月比+0.5%と予想(+0.4%)を上回った事や、東京市場でのドル不足を背景にドル/円でドル買いが強まった事を背景に、豪ドル/円は一時86.00円まで上昇した(④)。
4/1 Friday	米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数は21.6万人増(予想:19.0万人増)、また失業率は8.8%(予想:8.9%)と2009年3月以来の低水準となった。この強い結果を受けてドル/円にてドル買いが強まると、豪ドル/円は一時2010年5月以来となる、87.58円まで上昇した(⑤)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

7日に豪州では3月雇用統計の発表が予定されている。今回は失業率の他にも、新規雇用者数における常勤雇用者数と非常勤雇用者数のバランスにも注目したい。もし雇用者減が伝えられても、常勤雇用者数が増加しているのであれば、豪ドル/円の下げは限定的となる可能性がある。

また、5日に予定されている豪準備銀行(RBA)理事会については、市場では政策金利の据え置き予想が大勢となっており、今回は注目度がやや低いと見られる。仮に政策金利が据え置かれ、その後の声明も前月とあまり変わらない内容となった場合、市場の反応は限定的となり、豪ドル/円は小動きが予想される。

その他先週は、米国の金融引き締めへの思惑が強まる場面では、豪ドル/円はドル/円の上昇につれて値を上げる場面が見られた。今週も米金融当局者の発言が豪ドル/円相場を左右する事が予想される。

ただし、豪ドル/円は先週1日終了時点で既に11連騰となり、相場には過熱感も漂っている。主要国での株安や米金融当局者からの金融引き締め観測をけん制する発言などがきっかけとなり、調整局面入りとなる可能性には気をつけたい。(川畑)

(予想レンジ: 84.80~90.20 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●AUD/JPY 4/1週足引値:87.34円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は先週に引き続き上値模索の勢いが強く、日足では11連騰を記録した。またローソク足がバンド上限を押し上げており、目先の相場に過熱感も漂うも一服感は感じられないことから、今週も上値模索の動きが先行しそうだ。

ボリンジャーバンドは4/1現在、上限:87.54円~下限:77.80円と、バンド幅は上下に拡大。ローソク足がバンド上限を押し上げており、上値を試す動きが強まっている様子である。

ローソク足は20日線(4/1時点では82.67円)、60日線(同、82.77円)、200日線(同、80.59円)いずれも上向きとなっており、現在の相場が上昇トレンドにあることを示している。もし20日線が60日線を上抜く場合、上昇トレンドは息の長いものとなる可能性もある。

上値ポイントは①87.54円(バンド上限)、②88.04円(昨年4月高値)~88.13円(2008年3月安値)、③90.27円(2008年9/22高値)であり、下値ポイントは①85.80円(4/1安値)、②84.80円前後(4/1時点での、3/21安値からのサポートライン)、③82.70円前後(20日線や60日線に近い)である。(川畑)

NZD/JPY

NZドル/円 3/28~4/1の主な推移



<p>3/29 Tuesday</p>	<p>ブロード・米セントルイス地区連銀総裁が「米連邦準備制度理事会(FRB)は世界の不確実性が解消される事を待たずに、金融政策の正常化を開始する可能性がある」などと発言。市場では米金融緩和の出口戦略からのドル/円の上昇に連れてNZドル/円は上昇した(①)。</p>
<p>3/30 Wednesday</p>	<p>フィッシャー・米ダラス連銀総裁の「6月以降の量的緩和第2弾(QE2)延長に反対」との発言が引き金となり、ドル/円が上昇しNZドル/円は値を上げた。またその後も欧州株や時間外のNYダウ平均先物の上昇を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、NZドル/円は一段と上昇した(②)。</p>
<p>3/31 Thursday</p>	<p>年度末を理由にした東京市場でのドル不足を背景としたドル買いにより、ドル/円の上昇に連れてNZドル/円は一時63.36円まで上昇した。ただ仲値公示後にドル売りが強まったことや、11時に発表された3月NBNZ企業信頼感が前月を大きく下回ったことが嫌気され、NZドル/円は一時62.62円まで反落した(③)。</p>
<p>4/1 Friday</p>	<p>米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数は21.6万人増(予想:19.0万人増)、また失業率は8.8%(予想:8.9%)と2009年3月以来の低水準となった。この強い結果を受けてドル/円にてドル買いが強まると、NZドル/円は一時2010年11月以来となる、64.64円まで上昇した(④)。</p>

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

今週の見通し

今週、NZでは主だった経済指標の発表が予定されておらず、引き続き主要国の株価に左右されやすい展開が予想される。また先週は米金融引き締め観測が強まり、ドル/円が上昇する局面では、NZドル/円も連れて値を上げる展開が目立った。今週も米国の金融引き締め観測によりドル/円が上昇する場面では、NZドル/円も上値模索の動きとなりやすいと見る。

ただNZドル/円は先週1日終了時点で既に11連騰となり、相場には過熱感も漂っている。主要国の株安や米金融当局者からの金融引き締め観測をけん制する発言などがきっかけとなり、調整局面入りとなる可能性には気をつけたい。(川畑)

(予想レンジ:62.20~67.20円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●NZD/JPY 4/1週足引値64.55円（日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開）

NZドル/円は3/17の急落後、11連騰を達成。またローソク足がバンド上限を押し上げ、年初来高値をも更新しており、目先は上値模索の動きが先行しそうである。ただ調整らしい下げがないまま一気に上昇したことで、市場では高値警戒感が漂っている。何かのきっかけで調整局面入りとなる可能性には気をつけたい。

ボリンジャーバンドは4/1現在、上限:64.38円～下限:60.68円であり、バンド幅は上下に拡大。上昇トレンド継続を示唆している。

ローソク足は20日線(4/1時点では60.68円)が上向くも、60日線と200日線(いずれも4/1時点では62.14円)がほぼ横ばいとなっている。もし20日線がこれらを上抜け、さらに60日線や200日線も上向きに転じるようであれば、上昇トレンドは息の長いものとなる可能性もありそうだ。

上値ポイントは①65.34円(昨年11/22高値)、②67.17円(2008年9月安値)、③68.73円(4/1時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①64.22円(1/27高値)、②63.20円(4/1安値)、③62.14円(60日線と200日線が位置)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 3/28~4/1の主な推移



3/29
Tuesday

ブロード・米セントルイス地区連銀総裁が「米連邦準備制度理事会(FRB)は世界の不確実性が解消される事を待たずに、金融政策の正常化を開始する可能性がある」と発言。市場では米金融緩和の出口戦略からのドル/円の上昇に連れて連れて、ランド/円も上昇(①)。尚NY時間にマーカス・南ア準備銀行(SARB)総裁は「ランドを強くも弱くもしようとはしない」「インフレをコントロールする為に必要な措置を取ってゆく」と述べたが、反応は限定的であった。

3/30
Wednesday

フィッシャー・米ダラス連銀総裁の「6月以降の量的緩和第2弾(QE2)延長に反対」との発言が引き金となり、ドル/円が上昇しランド/円は値を上げた。またその後も欧州株や時間外のNYダウ平均先物の上昇を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、ランド/円は一時12.17円まで上昇した(②)。

3/31
Thursday

18時半に発表された南ア2月生産者物価指数は前年比+6.7%(予想:+6.1%、前回:+5.5%)となった。また21時発表の2月貿易収支は-4億ランドと予想(-15億ランド)よりも赤字幅が縮小したが、いずれ市場の反応は薄かった。その後NYダウ平均が上昇しランド/円は上昇した(③)。

4/1
Friday

米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数は21.6万人増(予想:19.0万人増)、また失業率は8.8%(予想:8.9%)と2009年3月以来の低水準となった。この強い結果を受けてドル/円にてドル買いが強まると、ランド/円は一時2010年5月以来となる12.55円まで上昇した(④)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

今週、南アフリカでは主だった経済指標の発表が予定されておらず、引き続き主要国の株価に左右されやすい展開が予想される。また先週は米金融引き締め観測が強まり、ドル/円が上昇する局面では、ランド/円も連れて値を上げる展開が目立った。今週も米国の金融引き締め観測によりドル/円が上昇する場面では、ランド/円も上値模索の動きとなりやすいと見る。

また29日のマーカスSARB総裁の発言について、直後の市場の反応は限定的であった。しかし今後、同国のインフレ率が上昇する場合、SARBの利上げ観測が浮上することも考えられる。

ただランド/円は先週1日終了時点で既に11連騰となり、相場には過熱感も漂っている。主要国の株安や米金融当局者からの金融引き締め観測をけん制する発言などがきっかけとなり、調整局面入りとなる可能性には気をつけたい。(川畑)

(予想レンジ:12.10~13.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 4/1週足引値:12.54円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は上昇基調が続き、直近高値(3/10の12.06円)のみならず、それまでの今年高値(1/4の12.40円)をも更新した。目先はローソク足がバンド上限を押し上げており、上昇トレンドが継続している模様である。ただ上昇ペースが急なため、高値警戒感が漂う中での上値模索となりそうである。

ボリンジャーバンドは4/1現在、上限12.48円～下限:11.14円と、バンド幅が拡大すると同時に、ローソク足がバンド上限を押し上げており、上昇トレンド継続を示唆している。目先はローソク足がバンド上限から脱落するようだと、その後上値の重さが意識される可能性もある。

移動平均は20日線(4/1時点では11.81円)が60日線(同、11.70円)や200日線(同、11.79円)を上抜けた。今後60日線が200日線も上向くようだと、上昇トレンドは息の長いものになる可能性もある。

上値ポイントは①12.85円(昨年4/30高値)、②13.05円(昨年4/5高値)、③13.70円(2006年高値19.74円～2008年安値7.66円の値幅12.08円の1/2戻し)であり、下値ポイントは①引値レベルで12.48円(バンド上限)、②12.22円(4/1高値)、③12.06円(3/10高値)である。(川畑)

経済指標カレンダー (4/4~8)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/4	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業業況判断]	6	—
(月)	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業先行き]	2	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業業況判断]	3	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業先行き]	-1	—
	19:00		(ユーロ圏)2月生産者物価指数[前年比]	6.10%	6.70%
4/5	—		香港休場(清明節)		
(火)	10:30	○	(豪)2月貿易収支	+18.75億AUD	—
	13:30	○	(豪)RBAキャシュターゲット	4.75%	4.75%
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前月比]	0.40%	—
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前年比]	0.70%	—
	23:00	◎	(米)3月ISM非製造業景況指数	59.7	60
	27:00	◎	(米)FOMC議事録(3月14・15日分)	—	—
4/6	—		(日)日銀金融政策決定会合(~7日)	—	—
(水)	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[先行CI指数]	101.5	104.2
	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[一致CI指数]	105.9	106.4
	17:30	○	(英)2月鉱工業生産[前月比]	0.50%	0.40%
	17:30		(英)2月製造業生産高[前月比]	1.00%	0.50%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	0.30%	0.30%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	2.90%	0.50%
	19:00		(独)2月製造業受注[前月比]	2.90%	0.50%
	23:00		(加)3月Ivey購買部協会指数	69.3	—
4/7	—	○	日銀金融政策決定会合(6日~発表)	0.00-0.10%	0.00-0.10%
(木)	10:30	◎	(豪)3月新規雇用者数	-1.01万人	—
	10:30	◎	(豪)3月失業率	5.00%	—
	19:00	○	(独)2月鉱工業生産[前月比]	1.80%	0.50%
	20:00	○	(英)BOE政策金利発表	0.50%	0.50%
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.00%	1.25%
	21:30	◎	(米)4/2までの週の新規失業保険申請件数	38.8万件	—
	21:30		(加)2月住宅建設許可[前月比]	-5.10%	—
	28:00		(米)2月消費者信用残高	+50.14億USD	+48.00億USD
4/8	15:00		(日)2月経常収支	+4619億円	+1兆7430億円
(金)	15:00		(日)2月貿易収支	-3945億円	+7441億円
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査[現状判断DI]	48.4	—
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査	47.2	—
	14:00		(日)4月金融経済月報・基本的見解	—	—
	15:00		(独)2月貿易収支	101億EUR	—
	15:00		(独)2月経常収支	+72億EUR	—
	17:30	◎	(英)3月生産者物価指数[コア:前年比]	3.10%	2.90%
	20:00	◎	(加)3月失業率	7.80%	7.70%
	20:00	◎	(加)3月雇用ネット変化	+1.51万人	+3.25万人
	21:15		(加)3月住宅着工件数	18.19万件	18.00万件
	23:00		(米)2月卸売在庫[前月比]	1.10%	1.20%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com